

【 会員投稿 】

デジタル写真を楽しむ

須永 洋

今や写真もデジタルカメラが主流になってきた。私もフィルムカメラで撮影する機会が徐々に減ってきて、いつの間にか撮影のほとんどがデジタルカメラでの撮影となってしまった。

デジタルカメラで撮影するということのメリットは、その場ですぐに撮影結果が見られることと、パソコンやデジカメの普及で、これまでプロの領域だった写真の画像処理に、誰でもが簡単に踏み込めるようになって、自分で現像できることであろう。

昔は現像(プリント)といえば暗室で行ったものですが、デジタル時代では暗室も必要なく、カラーもインクジェットプリンターで自家処理が出来ます。しかも、デジタル写真では用紙の選択もかなり自由で、写真用紙だけではなく、和紙、画材紙や布などと色々な素材にプリントでき、素材によっては魅力ある作品に仕上げられるということが大きな特徴ではないでしょうか。

撮影してきたデジタル写真を、自分の手で好みの色調に仕上げ、自家プリントして、より満足度の高い写真を作るためには、どうしてもパソコンで画像処理ソフトを使って、画像補正処理(レタッチという)をマスターして行かねばならないという難しさがデジタル写真にはある。

参考書を片手に見様見真似の学習では解らないことが多く、最近、写真をパソコンで、水彩や手書き風の絵画ポイ作品にアレンジメントして、デジタル写真を楽しんでいる写真の同好会に入り、プリントの知識や難解な画像処理ソフトを使った、レタッチの操作方法などを教えて貰っている。

レタッチ編集には、たくさんの編集機能があり、また専門用語がつかわれている。その機能の相互関係を良く理解できないまま、レタッチをしているので、操作にすぐに行き詰ってしまい、何度も同じことを繰り返して、なかなか前に進めず悪戦苦闘中である。それでも自分で現像や補正をして、プリントすることで、デジタル写真を大いに楽しむことが出来るので、めげずにやっています。

またもう一方、ある写真家の写真展で、写真でありながら日本画や水彩画のような写真を見て、その色調が好きになり、その教室に通い始めた。

そして今はレタッチ手法の習得と新しい写真描画に挑戦し、和紙や画材紙等いろいろな素材を使って、水彩画風の写真にこだわって、デジタル写真を楽しんで行こうと思っています。



これらの作品については、現在菱の実会ホームページの「会員趣味の作品集」のコーナーに毎月掲載させて頂いておりますので、ご笑覧下さい。

会員投稿のご協力有難うございます。現在の未掲載原稿は、六件です。引き続きよろしくお願ひします。